

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

F. その他

③積極的な情報提供体制の確立

《理工農系》

●同志社大学工学研究科機械工学専攻

「安全・安心の設計システム技術者養成課程」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

ホームページ、カタログ、ポスター配布及び大学院 GP 合同フォーラムの出展やイブニングセミナー、活動報告会を通して、情報提供を行ったが、実習の内容について十分な情報提供が出来なかった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

事故事例を含む安全・安心というテーマは実習の受け入れ企業にとって、非常にセンシティブな内容であったため、企業として公開を望まないため、情報提供の手段、内容について苦労した。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

実習の結果等はホームページ等では公開せず、毎年度末の報告会及び報告書で行った。報告会にはごく限られた関係者のみ招待し、また報告書の配布もごく限られた関係者のみで行った。事前に受け入れ企業と実習内容の公開について、十分な議論、リスクヘッジをしていれば、ホームページ等での実習内容の報告が可能であったと考える。